



第16回

鹿児島県原子力安全・

令和3年12月23日に第16回の専門委員会が開催されました。

避難計画等防災専門委員会

県や九州電力などからの報告を受けて、委員からさまざまな意見や助言がありました。

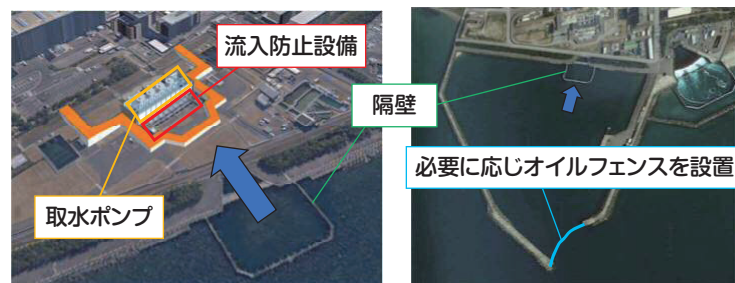
川内原子力発電所の安全性の確認について

川内原子力発電所の海水取水設備における漂流物対策について(説明:九州電力)

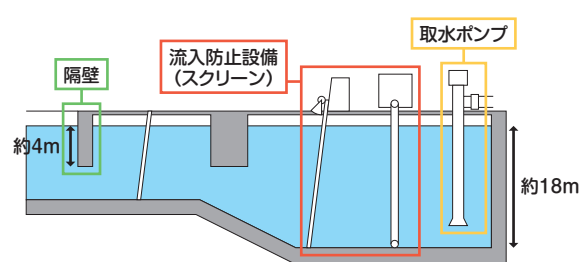
- 小笠原諸島の海底火山噴火の影響により、沖縄県や奄美群島などに軽石が漂着していることを受け、川内原子力発電所における漂流物対策について説明がありました。

○発電所では、原子炉設備の冷却やタービンで使用した蒸気を水に戻すために海水を取水しているが、取水は隔壁を設けて海面から数メートル下の海水を取り入れる構造としているほか、取水した海水中の漂流物がポンプに吸い込まれないよう、網状の流入防止設備(スクリーン)を設けるなど対策を行っている。

○現在、軽石の漂流に関する情報に注意を払うとともに、海水中の漂流物を除去するスクリーンの前後の水位差や捕集されたゴミ等を確認し、軽石が漂着していないことを確認している。



取水設備の外観



取水設備のイメージ図

- Q** 大量発生したクラゲが取水口に流入し、目詰まりした場合、発電所の運転についての手順が決まっているが、軽石の場合も同じ手順なのか。
- A** クラゲ発生時と同様、海水の取水に影響が生じた場合には、必要に応じて発電機の出力をおさえる手順となっている。

原子力防災対策について

令和3年度原子力防災訓練の新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた訓練項目及び感染症対策について(説明:鹿児島県)

- 感染症の流行状況によっては住民の方々の参加を中止することや、参加者に対するマスク着用などの感染症対策等について説明を行いました。

訓練で実施する感染症対策については、感染症に関する学識経験者の指導、助言を得て欲しい。

専門委員会における運転期間延長に関する検証について

- 県は、「今後、九州電力の国への延長申請を見据えて、原子力政策に批判的な方を含め、運転延長に関する科学的、技術的な検証に必要な専門分野における学識経験者4名を、専門委員会の特別委員として新たに委嘱し、集中的かつ効果的に検証作業を進めるために、専門委員会の委員及び特別委員の計6名で構成する分科会を設置し、川内原子力発電所の運転期間延長に関する検証を進めたい」と、専門委員会に対し提案しました。

専門委員会が事務局【鹿児島県】からの提案を承認

令和3年12月23日に
「川内原子力発電所の運転期間延長の検証に関する分科会」を設置しました。

任
務

川内原子力発電所1号機及び2号機の運転期間延長に係る次の事項について、科学的・技術的検証を行い、その結果を委員会に報告する。

- (1) 九州電力株式会社が実施する特別点検及び劣化状況評価
- (2) 九州電力株式会社が策定する施設管理方針
- (3) (1),(2)に関連し必要な事項

分
科
会
委
員

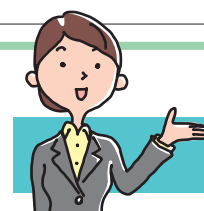
委員名	分野	所属・職名
大畑 充	破壊力学・損傷力学・材料強度学・溶接力学	大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻 教授
橘高 義典	建築材料・コンクリート工学	東京都立大学大学院都市環境科学研究科 建築学域 教授
後藤 政志	プラント	星槎大学 非常勤講師 (元APAST代表, 元東芝 原発設計技術者)
渡邊 英雄	照射損傷・原子炉材料工学	九州大学応用力学研究所 核融合力学部門 准教授
釜江 克宏	地震工学・耐震工学	京都大学複合原子力科学研究所 特任教授
守田 幸路	原子炉熱流動・安全工学	九州大学大学院工学研究院 エネルギー量子工学部門 教授

令和4年1月20日に開催した第1回分科会における提案(次ページ参照)を踏まえ、2月18日に専門委員会の中から委員を追加しました。

委員名	分野	所属・職名
佐藤 暁	原子力発電の国際情報	原子力コンサルタント

今回の会議結果は県ホームページに掲載しています

鹿児島県 第16回専門委員会



第1回分科会の
内容は次のページへ